

CFS-F FX

製品仕様書

2020年2月19日

日本ヒルティ株式会社



CFS-F FX (ファイヤーストップフォーム) の製品概要

- 防火区画の丸穴ケーブル貫通向け2液性の発泡ウレタンベースの防火措置材
- 本製品は、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 4 第 1 項第七号八 (防火区画貫通部 1 時間遮炎性能) の規定に適合するものとして、国土交通大臣認定を取得しています。

特長

- 業界最大級の貫通径
- すぐれた気密・遮音性能
- 優れた施工性

製品仕様

製品名 / 製品番号	容量	発泡後体積	最大開口径	発注単位
CFS-F FX / 429802	325ml	約 2.1 L	Φ150mm(Sウォール) Φ210mm (中空壁等)	1 個

CFS-F FX には 337111 HIT-RE-M ミキサーノズルが 1 個付属しています。
CFS-F FX は非在庫品となります。

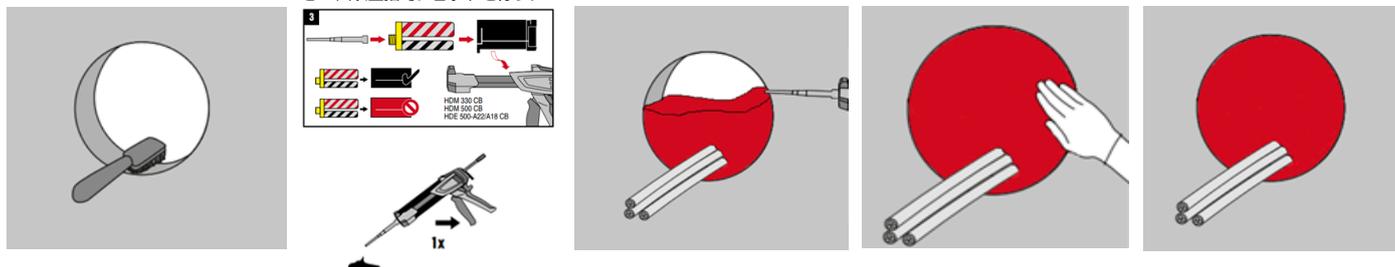
CFS-F FX ファイヤーストップフォーム 技術データ

硬化後使用温度範囲	-30 °C から 60 °C
作業温度範囲	10 °C から 35 °C
保管および輸送温度	5 °C から 25 °C
主成分	ポリウレタン、熱膨張材
消費期限	製造後 9 か月
熱膨張率	1:2
成形可能時間	約 5 分(手袋を装着した手指などで成形可能)
硬化時間	5-10 分
止水性	なし
気密性	あり (EN 1026)
遮音性	あり (EN ISO 140-3)
用途	熱膨張性シール材

施工手順

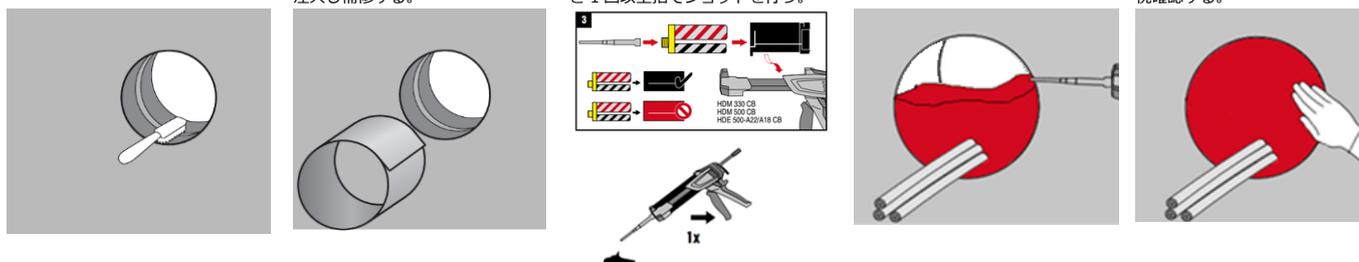
A L C壁・コンクリート壁 (PS060WL-1088)・Sウォールの場合 (PS060WL-1092)

1. 開口部・貫通するケーブル・管等の回りの清掃を行う。
2. CFS-F FX を専用のディスペンサーに装着し、専用のノズルを取り付け、ディスペンサーのトリガーを引き1回以上捨てショットを行う。
3. 開口部と貫通するケーブル・管等の隙間に CFS-F FX を充てんする。
4. CFS-F FX 発泡後、保護手袋を着した手で表面仕上げを行う。
5. 仕様どおりに施工されていることを目視確認する。



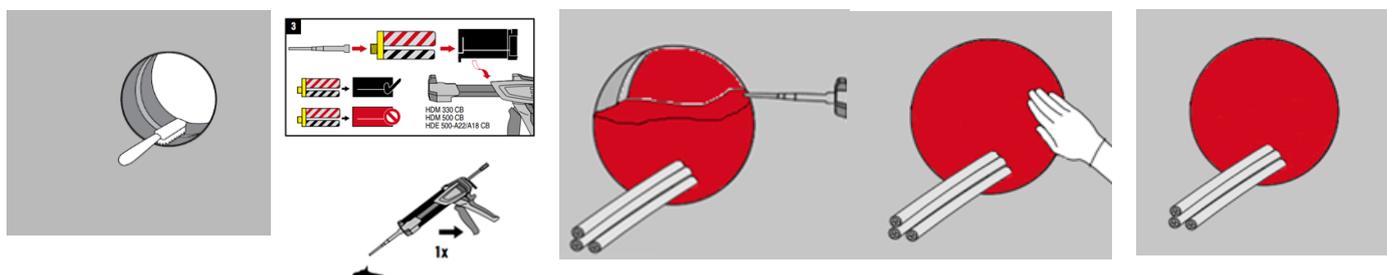
中空壁（鋼製スリーブ併用）の場合 (PS060WL-1088)

1. 開口部・貫通するケーブル・管等の回りのほこり・ごみ等を取る。
2. スリーブを挿入する。開口部とスリーブ周りの間に隙間がある場合には、その隙間に FS-ONE MAX を注入し補修する。
3. CFS-F FX を専用のディスペンサーに装着し、専用のノズルを取り付け、ディスペンサーのトリガーを引き1回以上捨てショットを行う。
4. 開口部と貫通するケーブル・管等の隙間に CFS-F FX を充てんする。
5. CFS-F FX 発泡後、保護手袋を着した手で表面仕上げを行う。仕様どおりに施工されていることを目視確認する。

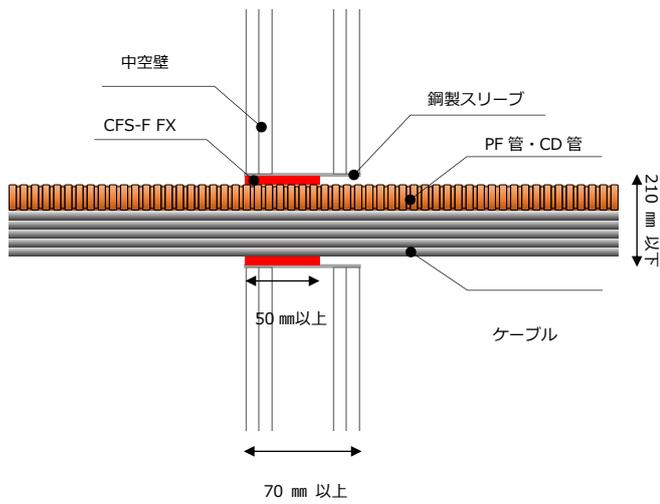


中空壁（鋼製スリーブなし）の場合 (PS060WL-1087)

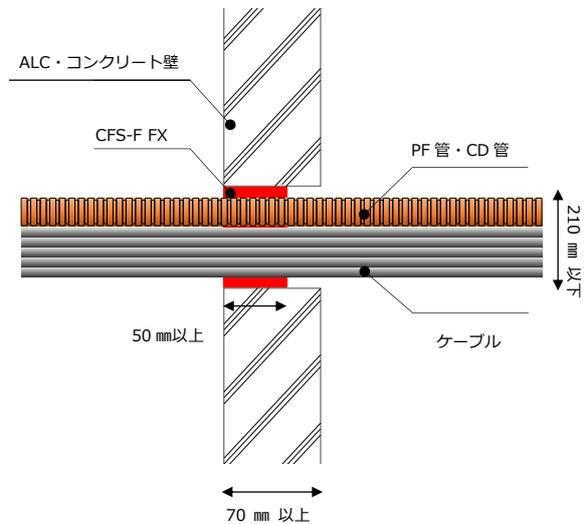
1. 開口部・貫通するケーブル・管等の回りのほこり・ごみ等を除去し、ケーブル・管等を通す。
2. CFS-F FX を専用のディスペンサーに装着し、専用のノズルを取り付け、ディスペンサーのトリガーを引き1回以上捨てショットを行う。
3. 開口部と貫通するケーブル・管等の隙間に CFS-F FX を充てんする。
4. CFS-F FX 発泡後、保護手袋を着した手で、表面仕上げを行う。
5. 仕様どおりに施工されていることを目視確認する。



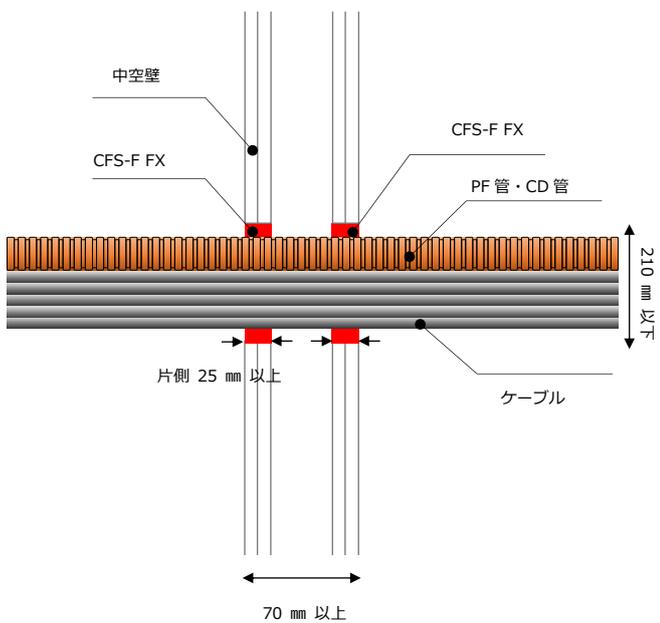
施工例



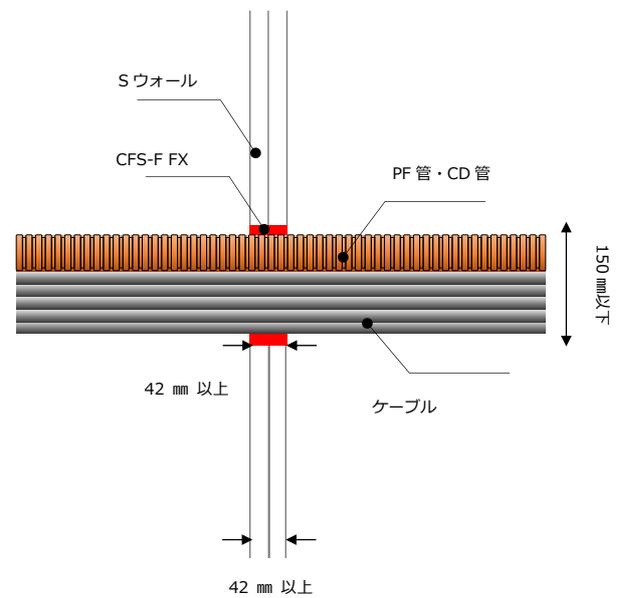
中空壁（鋼製スリーブ併用）の場合（PS060WL-1088）



ALC壁、コンクリート壁の場合（PS060WL-1088）



中空壁（鋼製スリーブなし）の場合（PS060WL-1087）



Sウォールの場合（PS060WL-1092）

関連製品

	品名	品番	発注単位
	HIT-RE-M ミキサーノズル	337111	1
	ファイヤーストップマニュアルディスペンサーコンボ HDM 330 マニュアルディスペンサー カプセルホルダー-HIT-CB 330	3637329	1
	ファイヤーストップ電動ディスペンサーコンボ HDE 500-A22 充電式バッテリーディスペンサー カプセルホルダー-HIT-CB 500 (バッテリー・充電器別売り)	3637330	1

CFS-F FX には 337111 HIT-RE-M が 1 つ付属しています。

注意事項

本仕様書記載の内容は、改良等のため、予告なく一部変更されることがあります。

施工前に必ず大臣認定書と安全データシート(SDS)をご参照ください。